

塚田ゼミ

～Seminar is Freedom～

塚田ゼミでは、学生が楽しみながら主体的に学ぶことを重視しています。今年度は日本経済新聞社主催の「第13回全国学生対抗円ダービー」に参加しましたので、その様子を簡単にご紹介します。

全国学生対抗円ダービーとは、5、6、7月末の東京外国為替市場の円・ドル相場を予想し、3回を通じて相場との差が最も小さかったチームを優勝とするものです。今年は、全国から469チームが参加しました。



(ある日のゼミ風景)



※ 撮影者

5月の予想方法

まず1回目は、シンプルにランダムに決めることにしました。
話し合いの中で、2010FIFAワールドカップで多くの試合結果を予言したタコのパウルが挙がり、ゼミ生3名がそれぞれ飼っているペット3匹を使ってランダムに決めようということになりました。
具体的な予想方法は以下の通りです。

① 2つのエサ(1ドル100円を超える・超えない)を各ペットに選ばせ、多数のペットが選択した方を採用。⇒2匹が「超えない」1匹が「超える」を選びました。

② 過去1カ月間の円相場の推移(約97円～101円)より、97円0銭～99円99銭の間で1桁ずつランダムに決定(7・8・9の3つのくじ、0～9のくじを作成)



(タコのパウル (Wikipediaより))

結果、第1回戦(5月30日)の為替相場は1ドル=100円62銭。
このゼミの予想は99円56銭だったため差は1円06銭となり、順位は119位と全体の三分の一ぐらいと上々の出だしとなりました。

6月の予想方法

2回目は複数の要因を挙げ、専門家の予想も鑑みながら議論を通して予想することにしました。



(専門家として助言を
頂いた村山先生)

1 つめは経済の重要指標であり、現在多くの注目を集めている米国雇用統計（失業率）です。今年に入ってから米国雇用統計（失業率）の予想と結果の推移をみると、予想時直近3ヶ月では予想より実際の失業率の方が低い状況が続いていました。このことから、今回も予想より実際の失業率が低いとすれば、円安傾向が続くと考えました。

2 つめはサッカー日本代表です。ワールドカップ出場を決めたことから、6月にブラジルで行われるコンフェデレーションズカップも応援に行くサポーターが増えると予想しました。また円が急騰したことから今のうちに出国や輸入品購入を実行する人が増えると予想しました。これらから、円高は一時的な現象であり、円安基調に戻ると考えました。

3 つめは、6月に行われたG8首脳会議で予定されていた日米首脳会談です。これにより米国の存在感がさらに高まり、ドル高が進むものと予想しました。

結果、第2回戦（6月28日）の為替相場は1ドル＝99円12銭。

このゼミでは1ドル＝103円07銭と予想し大きく外しました。経済学に詳しい先生からお話を聞き、意見を出してもらったのこの結果なので皆気を落としてしまいました。

7月の予想方法

1回目はランダム予想を行い、2回目は経済学の専門家の意見も取り入れた、いわゆる正統派の予想を行いました。ですが、相場の予想は専門家にとっても非常に難しく、絶対の根拠になるものはないようだ学びました。そこで3回目は、私たちは心理学のゼミということもあり、心理学の知見を活かした予想、しかも、他のどのチームもとっていない予想方法にしたいと思いました。

イギリスの心理学者 R. ワイズマン博士は、Quirkology という、日常生活における人間のちょっとおかしい行動をとりあげ、精力的に研究しています。そこで、ワイズマン博士の著書「運のいい人の法則」(角川文庫、2011)を参考に、運のいい人に相場予想をしてもらってはどうかということになりました。この本の中に、運のよさをチェックできる質問紙が紹介されているので、6人のゼミ生で5部ずつ印刷したものを持ち帰り、各自が友人等にチェックを受けてもらい、計30名の中から最も運のいい人に予想してもらうことにしました。具体的な方法は以下の通りです。

(1) 最も運のいい人に電話をかけ(出ない場合は2番目以降にかけていく)、現在の価格(約100円)よりも「上がるか下がるか」を答えてもらう。

→1番目の人が出て(運がいい!)、「上がる」と答えました。

(2) 過去3週間の円相場(終値)の最安値(96円46銭)から、現在の円相場(約100円)を1つのレンジとし、103円54銭を最高値として設定し、1桁ずつ好きな数字を答えてもらいました。

結果、第3回戦(7月31日)の為替相場は1ドル=97円86銭。

このゼミでは1ドル=102円68銭と予想し、再度大きく外してしまい、最終順位は342位となりました。結果は残念でしたが、楽しみながら多くのことを学ぶ良い機会となりました。